

1 題材名 でこぼこ広場に絵の具が走る

A 表現(2)ア、イ、ウ

B 鑑賞(1)ア、イ

2 題材について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、アンケートの結果75%が図工好きであり、25%がどちらかという図工が嫌いである。好きな理由としては「道具が上手に使えるから・アイデアが浮かぶから」、嫌いな理由としては、「道具が上手に使えないから」が多く挙げられた。児童は5年生になり「めざせ、ローラーの達人」の単元で、プレ題材として裏面が白い広告用紙を張り合わせ大きなキャンパスをつくり、ローラーの使い方、ステンシル、グラデーションなどの技法などを体験できる時間を設けてから、本番に取り組む活動をしたことで、自分の表したいことに合わせて材料や用具を選ぶことができるようになってきている。その一方で自分の思いをどのように表現したらよいか分からなかったり、技術が伴わなかったり、自分の表現したいものがつくれず戸惑ってしまう児童もいる。また、片付けの際には、協力して時間内に終わるように取り組んできている。

(2) 題材について

本題材は身のまわりのものを液体粘土で固めた画面に工夫して表現することを通して、考える・工夫する力を培うことをねらいとしている。ここでは、黄ボールを土台として、ひも、たこ糸、割りばし、エアキャップ、紙バンド、砂などのさまざまなものを組み合わせて、でこぼこした画面を構成し、それらに液体粘度を塗り乾燥させ固め、それらの面白さを生かしながら思いを広げていく。

(3) 本題材を指導するに当たって

指導に当たっては、プレ題材を用意することで、材料の特徴や道具の使い方を児童が体験できる時間を設け、道具を上手に扱えるようにしたり、アイデアやイメージが浮かびやすくしたりしていく。また、道具を扱うことが苦手な児童には早い段階で個別対応し支援していくことで、スムーズに活動に取り組めるようにしていく。プレ題材を通して、児童の思いに合った身近材料を用意させ、でこぼこした形の特徴や面白さを感じ、思いついたことを絵の具で彩色し、楽しみながら活動できるようにしたい。

鑑賞に関しては、創意工夫したことを互いに紹介し合う場面を適宜設定し、作品作りへの意欲を刺激したり、表現を広げさせたりして、つくる楽しさや見る楽しさを味わわせたい。

3 研修主題との関わり

研究主題 「感性を働かせ、自ら学び、伝え合う子の育成」

副題 図画工作における児童の思考力・判断力・表現力を育む指導方法の工夫

仮説1 「導入」の工夫や「展開」において豊富な材料・技法を体験させることにより、児童は感性を働かせ、自ら学ぶことができるであろう。

手立て

①教科書を効果的に活用して、課題をわかりやすくおさえられるように工夫し、興味・関心を高め、

児童が活動の見通しを持てるようにする。

- ②導入時は題材の最初の時間は15分以内、その他は5分以内とし、製作の時間を十分に確保する。
- ③「展開」における「プレ題材」を実施し、材料・技法体験をさせる。
- ④材料コーナーを充実させるとともに、児童がプレ題材でさらに必要と感じた材料を準備させる。

仮説2 「まとめ」及び作品提示の工夫や「展開」において個に応じた支援を行うことにより、児童は感性を働かせ伝え合う力を高めることができるであろう。

手立て

- ①活動の過程で鑑賞することで、互いの成果を学び合う機会を増やす。
- ②意図的な言葉かけをすることで、児童の思いを生かす支援をする。
- ③協力して時間内に片付けさせる。
- ④作品提示の工夫をする。

4 学習指導要領の位置づけ

A 表現 (2) 感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことを絵や立体、工作に表す活動を通して、次の事項を指導する。

- ア 感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことから、表したいことを見付けて表すこと。
- イ 形や色、材料の特徴や構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、表し方を構想して表すこと。
- ウ 表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表現した方法などを組み合わせて表すこと。

B 鑑賞 (1) 親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、次の事項を指導する。

- ア 自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、暮らしの中の作品などを鑑賞して、よさや美しさを感じ取ること。
- イ 感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえること。

共通事項 (1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。

- ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。
- イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

5 題材の目標

身のまわりのものを液体粘土で固めた画面に工夫して表現することを通して、造形的な能力を高める。

6 評価規準

※アンダーラインは共通事項に関連した内容を示す

造形への関心・意欲・態度【関】	発想や想像の能力【発】	創造的な技能【技】	鑑賞の能力【鑑】
身のまわりにある材料の特徴を味わいながら組合せを楽しみ、表し方に関心を持って取り組んでいる。	<u>でこぼこやざらつき、画面の形や大きさなどから思いを広げ、表し方を考</u> <u>えている。</u>	画面を生かす表現や絵の具の効果的な使い方を試しながら、工夫して表している。	自他の表し方の違いやよさを伝え合いながら振り返ったり、新しい表し方に気づいたりしている。

7 指導と評価の計画 ※**教**マークは教科書を活用する場面

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">でこぼこの絵って、どんなだろう？</p> <p>1 参考作品を鑑賞する。教 【仮説1手立て①】</p> <p>2 見通しをもつ。 【仮説1手立て②】</p> <p>3 プレ題材を体験する。 【仮説1手立て③】</p> <p>4 鑑賞する。 【仮説2手立て①】</p> <p>5 片付けをする。 【仮説2手立て③】</p>	<p>○教科書の作品のよさや美しさに触れさせ、本題材への興味・関心を高めさせる。</p> <p>○製作過程を確認し、製作への見通しをもたせる。</p> <p>○材料・技法体験をさせるためにプレ題材を用意して、身近材料と液体粘土を使い、でこぼこな画面を製作させる。</p> <p>○グループで協力して、時間内で片付けさせる。</p>	<p>【関】材料の特徴を味わいながら、組み合わせ方を試したり、面白さを感じたりしている。</p> <p>【鑑】自他の作品やから気付いた違いやよさを振り返り、自分とは違う表現の仕方に気付いている。</p>
2	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">何に見える？ でこぼこ画面に彩色して、自分の思いを広げよう。</p> <p>1 見通しをもつ 【仮説1手立て②】</p> <p>2 参考作品を鑑賞する。教 【仮説1手立て①】</p> <p>3 プレ題材を体験する。 【仮説1手立て③】</p> <p>4 鑑賞する。 【仮説2手立て①】</p> <p>5 片付けをする。 【仮説2手立て③】</p>	<p>○本時の流れを黒板に掲示する。</p> <p>○教科書作品を鑑賞することで、でこぼこの画面に工夫して彩色する方法について考えさせる。</p> <p>○材料・技法体験をさせるためにプレ題材を用意して、前時に製作したものに彩色させる。</p> <p>○自他の作品を鑑賞し合い、違いやよさを振り返る。</p> <p>○鑑賞の際は、次時につながる振り返りができるように児童に伝え、鑑賞カードに使いたい材料や技法を具体的に書かせる。</p> <p>○グループで協力して、時間内で片付けさせる。</p>	<p>【関】でこぼこを何かに見立てて彩色し、面白さを味わっている。</p> <p>【鑑】自分の作品や、友達の作品から違いやよさを振り返り、新しい表し方に気づいたりしている。</p>

<p>3</p> <p>1 見通しをもつ。 【仮説 1 手立て①②】教</p> <p>4</p> <p>2 制作する。 【仮説 1 手立て③】 【仮説 2 手立て②】</p> <p>3 片付けをする。 【仮説 2 手立て③】</p>	<p style="text-align: center;">さあ本番だ！ 自分の思いをでこぼこや形で表現しよう。</p> <p>○本時の流れを黒板に掲示する。</p> <p>○切り取った黄ボールの土台の上に、身のまわりの材料や液体粘度を使い、工夫してでこぼこな画面を製作させる。</p> <p>○材料コーナーを充実させるとともに、児童がプレ題材でさらに必要と感じた材料を準備させておく。</p> <p>○児童がどんな思いを広げ、どのような形に見えるか、一人ひとりに聞くことで、具体的な支援をする。</p> <p>○グループで協力して、時間内で片付けさせる。</p>	<p>【発】でこぼこやざらつき、画面の形や大きさなどから思いを広げ、どんな形に見えるか考えている。</p>
<p>5</p> <p>1 見通しをもつ。 【仮説 1 手立て①②】教</p> <p>6</p> <p>2 製作する。 【仮説 2 手立て②】</p> <p>3 作品を鑑賞する。 【仮説 2 手立て①】</p> <p>4 振り返る。 【仮説 2 手立て④】</p> <p>5 片付けをする。 【仮説 2 手立て③】</p>	<p style="text-align: center;">今度は色で思いを表現して完成だ！</p> <p>○本時の流れを黒板に掲示する。</p> <p>○画面を生かす表現や絵の具の効果的な使い方を工夫して彩色させる。</p> <p>○児童がどのように画面を生かして表現しているかを、一人ひとり確認して支援が必要な児童にはアドバイスをする。</p> <p style="text-align: center;">友達はどんなものをつくっているのだろう？</p> <p>○自他の作品を鑑賞し合い、違いやよさを感じとったり、それらを意見交換させたりする。</p> <p>○完成した作品には、児童の思いや、児童の写真を入れた名札を製作し掲示する。</p> <p>○グループで協力して、時間内で片付けさせる。</p>	<p>【技】画面を生かして表現したり、絵の具を効果的に使ったり、工夫して彩色している。</p> <p>【鑑】自分の作品や友達の作品から、感じ取ったことを文で書いたりしながら、表現の意図や特徴などをとらえている。</p>

8 「4つの実践と3減運動」との関わり

- ・授業中のあいさつ、返事の励行
- ・鑑賞での友達との認め合い

9 本時の学習（1／6）

- (1) 目標 ①材料の特徴を味わいながら、組み合わせ方を試したり、面白さを感じたりしている。
 ②互いに作品を鑑賞してよさに気づき、本番に使いたい表現の方法などを具体的に決めようとしている。

(2) 準備

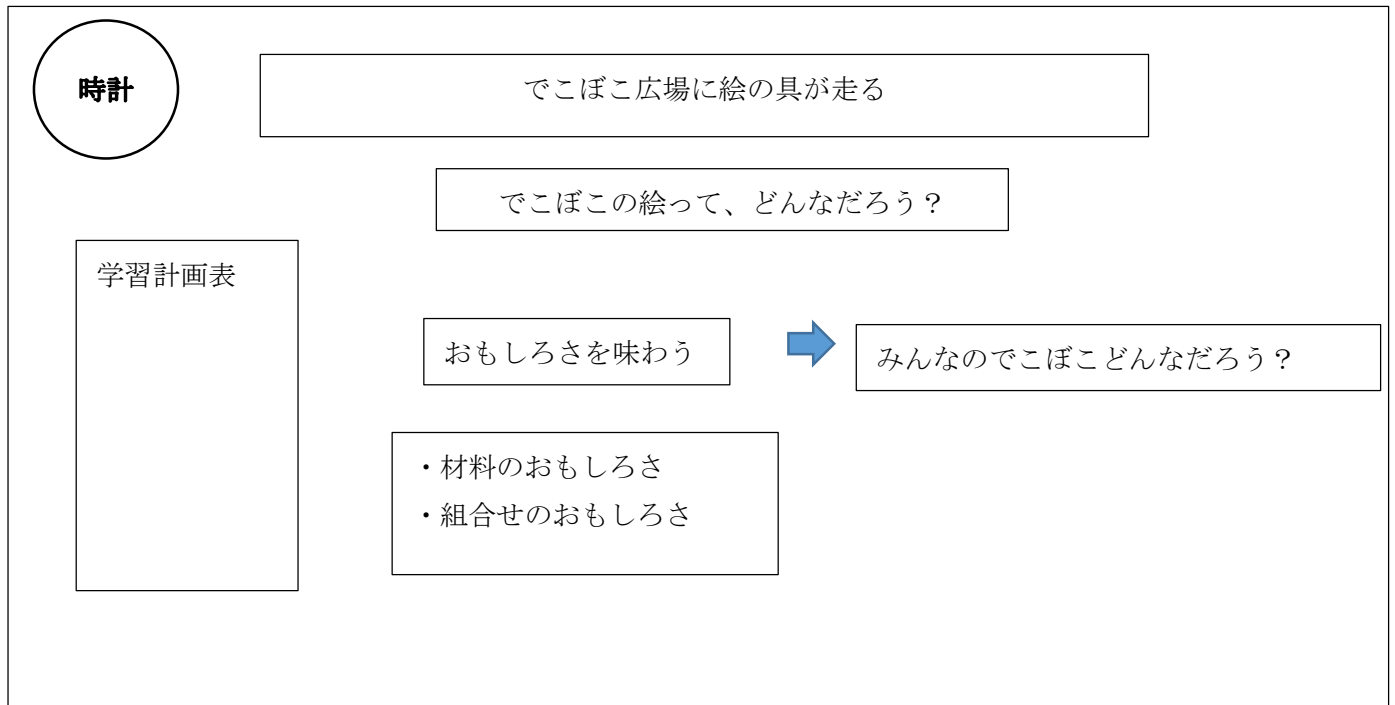
- 教師 黄ボール、液体粘土、紙バンド、ひも、でこぼこのダンボール、梱包材、接着剤、キャップ、砂、はけ、筆、共同絵の具、ダンボール用はさみ、ローラー、新聞紙、バケツ、紙皿、ヘラ、ビーズ
 ○児童 教科書、絵の具セット、身近材料、雑巾

(3) 展開

時間	学習活動	学習内容	○指導上の留意点（配慮・手立て） ◎評価 [共] 共通事項に係る内容
導入	でこぼこの絵って、どんなだろう？		
10分	1 参考作品を鑑賞する。 【教】 【仮説1手立て①】 2 見通しをもつ 【仮説1手立て②】	○材料の特徴や組み合わせ方	○单元と本時の流れを黒板に掲示する。 ○教科書の作品のよさや美しさに触れさせ、本題材への興味・関心を高めさせる。 ○本時の活動を児童を1カ所に集めて実際にやってみせ、感心や意欲を高め、発想や構想が膨らむようにする。
展開 25分	3 プレ題材を体験する。 【仮説1手立て②】	○材料の面白さ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ダンボール、こん包材、紙バンドは溝と表面のでこぼこ。 ・砂はざらつく感じ。 ・ひも、なわ、ロープは線になったり、くるくるしたりする。 ・ティッシュ、綿、キャップは高さが出る。 ・液体粘土は材料を接着したり、材料の質感を変えたりできる。 </div> ○材料を組み合わせると画面をつくる面白さ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ダンボールを並べると何かに見える。 ・太さの違う紐を組み合わせると変化がある。 ・砂の量が多い所と少ない所があるとざらざらの感じが違う。 </div>	◎材料の特徴を味わいながら、組み合わせ方を試したり、面白さを感じたりしている。 (十分できる状況) →材料の面白さと、組み合わせ方の面白さ感じている。 (努力を要する児童への手立て) →対話をしながら、何に見えるか聞き出したり、でこぼこの面白さを感じさせたりする。 ・「この材料のどんな所がおもしろい？」「どんな組み合わせ方がおもしろい？」などの言葉がけをし、児童のイメージが膨らむようにする。 ○児童がどんな面白さを味わっているか一人ひとりに聞くことで、評価と支援をすすめる。 ○形から自分のイメージをもつことができるようにする。[共]

ま と め 10 分	4鑑賞する。 【仮説2手立て①】	○鑑賞の観点 ・材料や組合せの面白さ	○互いに作品を鑑賞させ、違いやよさに気付かせる。 ○鑑賞の際は次時につながる振り返りができるように児童に伝え、鑑賞カードに使用したい方法を具体的に書かせる。 ◎自他の作品から気付いた違いやよさを振り返り、自分とは違う表現の仕方に気付いている。【鑑】
	5片付けをする。 【仮説2手立て③】	・○○さんの作品はダンボールをならべていておもしろい。 ・○○さんの作品は砂をたくさん使ってざらついている所がいい。 ・○○さんの作品は、綿をたくさん使って、高さがある所がいい。	(十分できる状況) →材料や組合せの面白さに気づき、本番に使用したい表現方法を考えている。 (努力を要する児童への手立て) →対話をしながら、材料や組合せの面白さに気づかせ、本番に使用したい表現法を考えさせる。 ・「この作品のどんなところがよいですか？」などの言葉がけをし、児童のイメージが膨らむようにする。
			○協力して時間内に片付けさせる。

10 板書計画



1 1 場の設定

